

「竜巻等突風対策関係局長級会議報告（平成 24 年 8 月）」を踏まえた各施策、対策の実施状況について

報告書 IV. 竜巻等突風対策に対する住民、市町村及び国の今後の取組	今年度における国土交通省の取組状況
<p>< 1. (3) ④ > ○従来から進めている関係機関と連携した航空機の安全運航に資する航空気象情報の作成及び運航事業者への情報提供を引き続き実施</p>	<p>空港気象ドップラーレーダーの観測データから、空港近辺における気象状況やダウンバースト等の領域を視覚的に表示するウィンドシア情報処理装置を活用し、運航事業者への情報提供を全国 9 空港（新千歳、成田、羽田、中部、関西、大阪、福岡、鹿児島、那覇）で引き続き実施している。</p>
<p>< 2. (1) ① (a) > ○国土交通省で整備している XRAIN(X バンド MP レーダネットワーク)の観測データを、気象庁において活用し、メソサイクロン検出手法の開発を行う。</p>	<p>XRAIN の観測結果について、竜巻の発生可能性の予測にも有効に活用してもらうため、気象庁へ提供している。</p>
<p>< 2. (1) ② (a) ~ (c) > ○国土交通省で整備している XRAIN(X バンド MP レーダネットワーク)や、防災科学技術研究所や防衛大学校等の首都圏の複数機関が運用する X バンド気象レーダーを同研究所でネットワーク化した「首都圏研究用 X バンドレーダネットワーク」等から提供される観測データを活用し、防災科学技術研究所において竜巻等突風・強風のリアルタイム観測手法の研究開発を行う。</p>	<p>XRAIN の観測結果について、竜巻の研究にも有効に活用してもらうため、防災科学技術研究所へ提供している。</p>
<p>< 2. (3) > ○竜巻等による飛来物に対する建築物の外装材の評価手法の検討・建築物の設計等に活用できる技術資料を作成するため、窓ガラスや外壁等の外装材についての評価手法の検討を進める。</p>	<p>竜巻等による飛来物の衝撃を受ける建築物外装材の性能評価方法に関し、実飛来物と飛来物試験との相似性、飛来物衝突に対する建築物要求性能、外装材の飛来物耐衝撃性能試験法から得られる性能について有識者からヒアリングし、技術的知見を整理する。国内で使用されている屋根ふき材や外壁を対象とした飛来物衝突試験を実施する。</p>
<p>< 2. (4) > ○住宅金融支援機構による被災住宅復旧のための融資に関する周知</p>	<p>住宅金融支援機構ホームページにおいて、被災された方々に対して災害復興住宅融資について案内中</p>